

金森万全のトップ堅持

フェスティバの⑧金森一がポールポジション。ファミリア勢のトップは、フェスティバに続いて⑦杉本英剛、それに②竹内順三、⑫大野ユタカと続く。

スタートから、ほぼ予選どりの順位でラップしていく。フェスティバ勢の1-2は快走を続ける。予選6番手⑩たけなかと、徐じよに順位を上げ、5周めには3番手へと浮上してくるが、②竹内には少し水を開けられている。ファミリア勢もトップ2台が3番手以下を大きく離す力走を見せている。3番手⑫大野、4番手⑩あおやまひろしの争いが熱い。終盤、フェスティバ勢⑧神田真人は最後まで⑧金森のテールをおびやかすもののペースを崩されるには及ばず、結局⑧金森がポール・ツー・フィニッシュの快勝。2番手は⑧神田、3番手には6番手スタートの⑩たけなかがはいった。

ファミリア勢の方は、⑦杉本が②竹内の追走を振り切ろうと力走を見せる。中盤②竹内は⑦杉本のテールへと迫るが、⑦杉本は底力を発揮、ゴールまで②竹内を寄せつけず、見事ポール・ツー・フィニッシュを成し遂げた。3番手は終始⑫大野、⑩あおやまによって争われたが、その順位を入れ替えることなく⑫大野が3番手をゲットした。



フェスティバ、ファミリアとも予選順位と大きな変動のないレース結果となった。

⑧金森は背後に迫る勢力を封じこめた。

バトル・イン・スリップを制した佐藤



デッド・ヒートが④佐藤と⑤網淵のあいだで展開された。

上位には御馴染みの顔ぶれが並ぶ。⑤網淵はコースレコードで見事ポール獲得。2番手④佐藤守3番手②春日勇人の順。

スタートと同時に1周めから勝負を賭けたという④佐藤が⑤網淵のテールはすぐさまはいつた。しかし、1コーナーで⑤網淵はトップを死守、そのまま2周めへ突入。しかし、スリップストリームにつけていた④佐藤は今度こそと勝負に出る。軍配はストレートエンドで④佐藤に上がった。負けじと⑤網淵も3周め、④佐藤へ向いた。常に両者はテール・ツー・ノーズ。その後ろには予選6番手から⑫金治芳隆が浮上してきたものの、ヘアピンでインを差してきた④佐藤が押し出されるようにコースアウト、大きく順位を落とすことになった。

周回を重ねることに④佐藤と⑤網淵は3番手を引き離すハイペースのバトルが続く。ストレートではスリップ・ストリームを駆使しようとする⑤網淵だが、どうしても前に出ることができず、結局2周めからトップに立った④佐藤がそのポジションを守り切り、またまた優勝をものにした。レース後④佐藤は「最後まで勝つて良かったからな。疲れた」とそのプレッシャーからの疲労度がかがわられた。

また、5番手でゴールした②春日勇人、6番手⑧桜井孝行は、レース後の車検で、J項21条1違反(下ア内張り、バンパー内部の軽量化)が見つかり失格となった。

'88F UJI FRESHMAN RACE

この日のファイナル・レース、サバンナRX7。予選は⑫福嶋大、⑦奥住英徳が、その健在ぶりを披露した。スタートから⑫福嶋が快調に飛ばす。⑦奥住3番手②若林秀樹を振り切るドライブインジを見せるものの、⑫福嶋との差は縮まらず、ラップごとに約1秒ずつ差が広がっていく。

⑫福嶋の独走も3周めでストップ。⑦奥住との差は縮まらないものの、広がることはなかった。⑦奥住、②若林、①和山浩行とも、前車との間隔を保ったままコーナーをクリアしていくのが精一杯といった感じだ。

そんな追っ手のないレース展開となった⑫福嶋は、非常に有利なレース運びをすることができた。4周めあたりからは、若干早めのブレーキング、無理をせず守りに徹してのドライブインジ。それでも⑦奥住らとの差は3秒以上をキープ。結局⑫福嶋はそのまま逃げ切り成功、見事なポール・ツー・フィニッシュを飾った。2番手には⑦奥住、そして②若林、①和山と続いた。

レース後のインタビューでも、「練習中からまずまずのタイムが出てたし、オープニングラップで2番手とのマージンが結構あったので、今日は勝てると思った」と、疲れひとつない表情で話っていた。

福嶋快調な独走



エンジン好調の⑫福嶋が終始レースをリード。

スターレットカレースターレットカレース

予選A、B2組に分け、参加75台に対し、39のグリッドが用意されるという、相変わらずの狭き門となった。さすがに予選トップの③近藤康晴から、39番手までのタイム差は2・5秒とかなかなかの接戦だ。

さて、まずまずの好スタートを見せたのは③石崎竜之介だ。彼は予選というところが、このレースには当てはまってしまうのだ。3周めあたりから、③石崎、③近藤らの中に、②小野の姿も加わってきた。

そして5周め、ポイント・リーダー②小野がトップに立つ。逃げる③小野を③石崎、⑨菊池らが追うが、ファイナルラップ②小野のスリップ・ストリームにはいることができず万事休す、かと思われたが、Aコーナーで③近藤が②小野をかわしてトップを奪取した。この順序で5台がテール・ツー・ノーズのまま最終コーナーからチェックアウトして力走する。1番にコントロールラインを通過したのは⑨菊池、5番手までが約0・5秒差での僅差のゴール。なんと2番手③近藤はゴール直前でスリップ・ストリームから出たものの、バランスを崩し、スピン状態のままゴールラインを通過。そのまま観客席側のフェンスに激突してしまふという痛い痛いイゴールシーンであった。



激戦区を制した⑨菊池のスターレット。

大クラッシュこそなかったものの、いくつかのレースでクラッシュ、コース整備等でタイムスケジュールが大幅に遅れ、このエクサ・パルサー・レースより8周から6周へと短縮して行なわれることになった。

ポールポジション⑨菊池昌史から1秒の間に9台が続く。グルマのセッティングは完璧」という⑨菊池を先頭に、全車1コーナーへ向かう。

好スタートを切ったかに見えた⑦加藤智だったが、ライジング・スタートと見なされ黒旗が出される。そこへ先頭で帰ってきたのは⑨菊池、次いで⑦加藤だった。だが⑦加藤は黒旗には気づかぬままメインスタンド前を通過。その後、お互いに引っぱり合うようなペースで3番手⑩下村に俊夫以下をジリジリ引き離していき、3周めあたりでも⑦加藤は熱走のあまりか、黒旗を確認できない模様だ。それどころか⑨菊池を猛追、失格覚悟の力走という感じでもある。それを追う⑩下村、②加藤登、①高橋孝一、⑤川上晶彦らが第2集団を形成するものの、激しい突っ込みなども見られずポジションキープといった走りで見事な走りを欠く。

毎ラップ出される黒旗にもかかわらず、⑦加藤は⑨菊池に続いてファイナルラップとなった。プレッシャーを与え続けたあげく、ついに⑦加藤は⑨菊池の前に出た。とはいえ、もちろん⑦加藤は黒旗無視で失格。⑦加藤、⑨菊池、少し遅れて⑩下村がゴールした。

しかし混戦中の黄旗見落としという場面は多々あるものの、ストレートでの黒旗無視、⑦加藤、もう少し深い態度を見せてほしかった。

完璧篠原初優勝



好スタートでレースをリードしていった⑩篠原のバルサー。